



話題のひろば

おめでとう ひこにゃん
9回目の誕生日 ファン5000人が祝福

4月13日、彦根城博物館前でひこにゃんの9回目の誕生日セレモニーがありました。

小雨が降るあいにくの天気の中、全国のファンや観光客ら500人が集まり祝福しました。ひこにゃんはお菓子や似顔絵などのプレゼント30点と、誕生日ケーキが贈られると、手を頬に当てるなど喜びの仕草を見せてファンを楽しませていました。

今夏、ひこにゃんは井伊直弼公生誕200年祭や、アメリカ・ニューポート市で開催される黒船祭(7月17日~19日)などに参加します。世界に向けて、彦根の魅力の宣伝活動で忙しくなりそうです。



消費生活相談窓口つうしん

第76回

身に覚えのないアダルトサイト
請求先に連絡しないでください

市内で最近起こった相談事例の情報をお伝えします。

携帯電話にショートメールが届いたので内容を確認すると、「アダルトサイト利用料金が支払われていないので、本日中午に電話連絡を求める」との文面と、連絡先の電話番号が書かれていた。アダルトサイトに登録した覚えはないが、電話連絡をした方がよいだろうか。

アダルトサイトから、身に覚えの無い請求を受けたという相談が増えていきます。まったく覚えのないサイトの運営者から、請求を受けた時には、無視をすることです。サイトの運営者に電話をかけることや、返信メールを送ると、相手に自分の連絡先を伝えてしまうことになるのでやめましょう。

また、慌ててサイトの運営者に連絡をしてしまうと、その後は代金請求メールが大量に届いたりや、支払いを求めめる電話がかかってきたりすることもあります。この場合には、メールの受信拒否設定や、電話の着信拒否設定を利用しましょう。

たとえば、携帯電話の機種名や団体識別番号、自分の位置情報が携帯電話の画面に表示されたとしても、それらの情報が

ら個人情報ももれてしまうことはありません。もっとも詳しく記載されていることを信じて、料金の支払いや返事をしないようにしましょう。

困った時やわからない時は、消費生活相談窓口にご相談ください。

彦根市消費生活相談窓口

☎ 30・6144番(午前9時~正午、午後1時~同4時15分)



井伊直弼公生誕200年祭事業 ひこね菓子選手権 「ひこね菓子」のアイデア募集

井伊直弼公生誕200年にあたり、茶人としての直弼公の魅力を発信する機会とするため、「一期一会」の精神が伝わる創作菓子(抹茶に合うもの)を広く募集し、商品化を目指します。

内容 抹茶にあう和菓子、洋菓子
参加条件

- ▶ 1個人または1団体につき3作品まで。ブローの人や、市外の人も応募できます
- ▶ 1作品につきエントリー用紙1枚を提出
- ▶ 書類選考会(8月)の通過者には、試食選考会(9月2日※)での試食品50個を提供(試食選考会の食材費は2万円を上限として実行委員会が負担します)

応募方法 応募用紙は、[困地域経済振興課](#)の窓口にあります。また、ホームページからもダウンロードできます。応募要項も窓口とホームページにありますので、詳しい内容を確認いただき、窓口か郵送またはメールで申し込んでください。

副賞 ①入賞者(3作品)に記念品と金一封
②参加者全員に記念品

応募期限 7月31日(金)

その他 応募書類は返却しません。入賞作品の応募者は、氏名・職業または学校名・住所地の市町村名を公表します。入賞作品に選ばれても、商品化されない場合があります。入賞作品の商品化には、取扱店ごとにアレンジを加える場合があります。入賞者がプロの場合は、「ひこね菓子」関連イベントへの納品、報道関係者へのお店紹介などを、他の販売店より優先します。

問い合わせ先 ひこね菓子選手権実行委員会事務局(困地域経済振興課内) ☎ 30-6119、FAX 24-9676



◀「ひこね菓子」のロゴマーク

第29回 「もったいない」気持ち ゴミの減量と資源化トピックス

食品ロスの現状

食材や料理が食べられる状態にあるにも関わらず廃棄されることを「食品ロス」といいます。

日本では、年間約1、700万トンの食品が廃棄されています。このうち、食品ロスは、年間約500万トンから800万トンほど含まれると推計されています。

買い物に行く時は、「買いたくない」「使い切る」「食べ残しをしない」「食べない」ことを考え、必要な分だけ買うようにしましょう。

マイバックを持ち歩こう

レジ袋は石油からできています。年間約305億枚ものレジ袋が使用されており、1人当たり約300枚を使用していることになりました。

レジ袋1枚を作るために、原油3ミリリットルが必要になり、レジ袋をこみとして

処分するためにも多くの資源とエネルギーが必要になります。

普段からマイバックを買い物で使用することで、レジ袋の削減につながります。一人ひとりの取り組みが、ごみ減量、石油資源の節約、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の削減に貢献することになります。

日々の生活の中で、何気なく生活するのではなく、無駄を省く意識と「もったいない」の気持ちを持って生活しましょう。



問い合わせ先 困生活環境課 ☎ 30・6116番、FAX 27・03995番